

d. 対外協力室**II-3-d-1****世界の宇宙輸送技術の歴史**

教授 的川泰宣 助手 竹前俊昭

欧米やロシアでは、ロケットを中心とする宇宙飛翔体技術の歴史が、一つの研究分野を形成しており、国際学会でも独自のセッションが開かれるようになってきている。また中国では、ロケット発祥の地ということもあって、初期の火箭その他についての文献はあるが、近代ロケット技術をその歴史との関わりにおいて研究しようという観点からの取り組みは少ない。日本は、地理的文化的に上記の両方の技術の実情や文献に接触・理解しやすい立場にあり、バランスのとれた研究が可能である。また各地に伝わる龍勢ロケットのような技術の源流を、タイやその他東南アジアの国々の同様のロケットと比較しながら探る課題もある。すでに概説として『宇宙へのはるかな旅』（大月書店）、『ロケットの昨日・今日・明日』（裳華房）などの形で発表している。

II-3-d-2**日本のロケット開発の歴史**

教授 的川泰宣 助手 竹前俊昭

日本の戦前のロケット開発はすでに昭和ひとけたの時代から開始されているが、その努力はスムーズに戦後のロケット開発には受け継がれなかった。文献や写真その他の資料も、アメリカのスミソニアン航空宇宙博物館など世界に散らばっている状況である。また戦後サンフランシスコ体制発足後のロケット開発についても、かつて『宇宙観測三〇年史』にまとめられたものの、より詳しい資料収集と考察を行うべき時期が到来している。いくつかの成果はすでにIAF（国際宇宙航行連盟）等の学会で発表しているが、今後さらに詳細な研究を行いたいと考えている。

II-3-d-3**宇宙と教育に関する研究**

教授 的川泰宣 助手 竹前俊昭

学校教育・家庭教育の問題点が「理科離れ」との関連で数々指摘される中で、社会教育的な視点からそれらを補う必要が叫ばれている。特に児童にあっては、宇宙活動およびその成果についての憧れや夢が強く、その傾向は世界的なものと言ってよい。そのような状況を反映して、IAF（国際宇宙航行連盟）等の国際学会にも“Space Education”なるセッションが設けられ活況を呈している。日本の宇宙をテーマにした一般・児童への教育活動について、実践的・理論的アプローチをすべき時期である。日本ではまだ日の浅い分野だが、速やかに育てるの必要を感じつつ、2005年5月に設立されたJAXA宇宙教育センターを拠点として、教育現場との連携を図りながら実践的に進めている。

e. 品質保証室**II-3-e-1****科学衛星の信頼性・品質検討**

室長	川口淳一郎	室員	大串義雄
室員	清水幸夫	派遣職員	山崎紹美

宇宙科学本部が機構統合前からこれまでに進めてきた、品質マネジメントやリスクマネジメントを中心とする、プロジェクト遂行のための方針や作業の規定などを文書化し、また制定していく作業を継続して行ったが、本年度は科学衛星プロジェクトの横断的適用のベースとなる設計基準類の整備を進め、電気、機械、熱、環境に関する設